

LIGHT-WEIGHT HIGH-STRENGTH ASBESTOS-FREE COMPOSITION FOR EXTRUSION MOLDING

Patent number: JP4243943
Publication date: 1992-09-01
Inventor: OKAZAKI HIROSHI; others: 01
Applicant: ASAHI CHEM IND CO LTD
Classification:
- **international:** C04B14/02; B28B3/20; C04B14/06; C04B14/38; C04B28/00; C04B38/02
- **european:**
Application number: JP19910009539 19910130
Priority number(s):

Abstract of JP4243943

PURPOSE: To provide a composition for the extrusion molding of an asbestos-free article having light weight and high strength.

CONSTITUTION: The objective asbestos-free composition for extrusion molding is composed of solid materials such as ordinary Portland cement as a hydraulic binder, wollastonite or pulp as reinforcing fiber, fine quartzite, crushed light-weight concrete foam cured in autoclave, methylcellulose as a thickener, etc., and a liquid material such as water. The composition is useful for the extrusion molding of an asbestos-free building material having light weight and high strength.

Data supplied from the **esp@cenet** database - Patent Abstracts of Japan

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-93685

(43)公開日 平成6年(1994)4月5日

(51)IntCl.

識別記号

庁内整理番号

FI

技術表示箇所

E 0 4 D 1/34

A

審査請求 未請求 請求項の数1(全4頁)

(21)出願番号 特願平4-243943

(22)出願日 平成4年(1992)9月14日

(71)出願人 000005832

松下電工株式会社

大阪府門真市大字門真1048番地

(72)発明者 内田 憲樹

大阪府門真市大字門真1048番地松下電工株式会社内

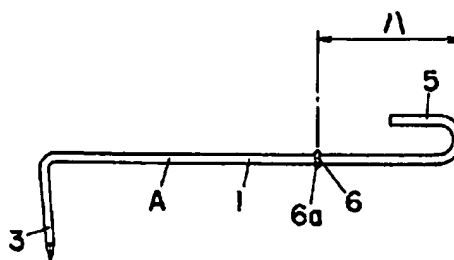
(74)代理人 弁理士 石田 長七 (外2名)

(54)【発明の名称】 平板屋根材の固定釘

(57)【要約】 (修正有)

【目的】 墨打ち作業を省きながら固定釘を屋根下地材上の正確な位置に設置する。

【構成】 線材1の一端より線材1と略直交する方向に向けて屋根下地材2に打入される釘部3を突設する。線材1の他端より上記釘部3と反対方向に向けて平板屋根材4の下端を支持する支持部5を突設する。支持部5と釘部3との間において線材1の途中に釘部3の打入位置を位置合わせするための目印6を設ける。



1…線材
3…釘部
5…支持部
6…目印

BEST AVAILABLE COPY

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 線材の一端より線材と略直交する方向に向けて屋根下地材に打入される釘部を突設し、線材の他端より上記釘部と反対方向に向けて平板屋根材の下端を支持する支持部を突設し、支持部と釘部との間において線材の途中に釘部の打入位置を位置合わせするための目印を設けて成ることを特徴とする平板屋根材の固定釘。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、平板屋根材を建物の屋根部に設置するための平板屋根材の固定釘に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、薄板状の平板屋根材4を屋根下地材2上に軒先側から順次葺設する場合に、図8に示されるような固定釘Aを用いることがある。この固定釘Aは剛性を有する線材1の一端に屋根下地材2に打入されることとなる釘部3を有し、線材1の他端には平板屋根材4の下端に係止されて平板屋根材4を支持する支持部5が設けられている。そして、施工時には図9、図10に示されるように予め屋根下地材2上に墨打ちにて釘部3を打入するための目印のラインaを設け、このラインaを目印にして釘部3を屋根下地材2に打入して固定し、平板屋根材4の下端を支持部5に係止することで平板屋根材4を屋根下地材2上に設置できるようになっている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、上述のような従来例にあつては、目印のラインaが設けられていないと固定釘Aを正確な位置に配置することができないものであり、軒先側から上方に向けて順次平板屋根材2を葺設していくにあたり、平板屋根材2を一段葺く毎に墨打ちにて目印のラインaを設けたり、または、平板屋根材4の葺設前に屋根下地材2上の複数箇所に墨打ちを行なつて目印のラインaを設けなければならないという問題があった。

【0004】本発明は上記問題点の解決を目的とするものであり、墨打ち作業を省きながら屋根下地材上の正確な位置に設置することができる平板屋根材の固定釘を提供しようとするものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明では、上記目的を達成するために、線材1の一端より線材1と略直交する方向に向けて屋根下地材2に打入される釘部3を突設し、線材1の他端より上記釘部3と反対方向に向けて平板屋根材4の下端を支持する支持部5を突設し、支持部5と釘部3との間において線材1の途中に釘部3の打入位置を位置合わせするための目印6を設けたものである。

【0006】

2

【作用】しかして、線材1の一端に設けられた釘部3を屋根下地材2に打入し、線材1の他端に設けられた支持部5に平板屋根材4の下端に係止することで平板屋根材4が屋根下地材2上に葺設される。そして、線材1の途中に設けられた目印6を先に葺設された平板屋根材4の後端に位置合わせすることで釘部3の打入位置を正確に位置合わせすることができ、墨打ちを行なったりすることなく簡単に釘部3を正確な位置に打入でき、支持部5による平板屋根材4の支持を正確な位置で行なうことができる。

【0007】

【実施例】以下、本発明を図示された実施例に基づいて詳述する。固定釘Aは図1に示されるように剛性を有する金属棒のような線材1の両端を折り曲げ加工し、線材1の一端に屋根下地材2に打入される釘部3を形成すると共に線材1の他端に平板屋根材4を支持する支持部5を設けて主体が構成されている。

【0008】釘部3は線材1の一端より線材1と略直交する方向に向けて突設されており、線材1の他端より突設される支持部5は上記釘部3が突出された方向とは逆方向に向けて線材1の他端をU字状に折り曲げ加工することで形成されている。支持部5と釘部3との間において線材1の途中には釘部3の打入位置を位置合わせするための目印6が設けられている。この目印6としては種々のものが考えられるものであり、図1に示されるものにあつては、線材1の一部を外方に突出させて形成された突部6aによって目印6が形成されている。また、図6に示されるものにあつては、線材1の一部に凹み6bを設け、この凹み6bによって目印6が形成されている。また、図7に示されるものにあつては、線材1の一部に着色部分6cを設け、この着色部分6cによって目印6が形成されている。

【0009】しかして、この固定釘Aを用いて平板屋根材4を軒先側から順次屋根下地材2上に葺設するにあつては、図2に示されるように先端部を軒先に合わせるようにして予め軒先部に配置された軒先下瓦7の上面に平板屋根材4を隣合うように配置し、隣合う平板屋根材4間に固定釘Aを配設し、固定釘Aの目印6を軒先下地瓦7の後端に位置合わせして釘部3を屋根下地材2に打入して固定釘Aを屋根下地材2に固定し、上記平板屋根材4の目地部を覆うように平板屋根材4上に配置される平板屋根材4の下端を固定釘Aの支持部5に係止して平板屋根材4が支持される。ここで、上記平板屋根材4は天然石をスライスして形成されている。次いでこの平板屋根材4上に設置される平板屋根材4は下の平板屋根材4の後端に目印6を合わせるようにして固定釘Aを屋根下地材2に固定し、支持部5に下端に係止するようにして設置されるものである。ここで、各平板屋根材4は上部に通孔（図せず）が穿設されており、この通孔を介して屋根下地材2に釘等の固着具を打入することで上部

3

が固定されるようになっている。そして、平板屋根材4を順次葺設していくにあたって、平板屋根材4を支持する固定釘Aは図3乃至図5に示されるように下に配置された平板屋根材4の後端に目印6を合わせることで所定位置で平板屋根材4を支持するように屋根下地材2に固定することができるものであり、つまり、平板屋根材4の下端を支持することとなる支持部5の位置を正確な位置に配置するようにして屋根下地材2に固定することができ、墨打ちを行なう作業を省略して固定釘Aを正確な位置に配置できるようになっている。ここで、平板屋根材4の長さ寸法が300mmである場合に下の平板屋根材4が露出することとなる葺き足の寸法を110mmとする場合には長さ寸法口が190mmの軒先下瓦7を用いるようにして目印6と支持部5との間の寸法ハが80mmの固定釘Aを使用することで順次葺設される平板屋根材4の葺き足の寸法を110mmとすることができるものである。つまり、長さ寸法口が190mmの軒先下瓦7を用いると共に目印6と支持部5との間の寸法ハが80mmの固定釘Aを用いるようにして軒先下瓦7の後端に目印6を合わせて固定釘Aを屋根下地材2に固定すると固定釘Aの支持部5は軒先下瓦7の上端より80mm下方にずれた位置で配置されることとなり、葺き足の寸法が110mmとなるものである。そして、軒先下瓦7として長さ寸法口が190mmのものを用いることで平板屋根材4の長さ寸法に対して予め110mm逃げた寸法となっているために順次葺設されていく平板屋根材4の葺き足の寸法はそれぞれ110mmとすることができるものである。また、葺き足の寸法を120mmとする場合には軒先下瓦7として長さ寸法口が180mmのものを使用した場合、目印6と支持部5との間の寸法ハを60mmとすることで順次葺設される平板屋根材4の葺き足の寸法を120mmとすることができる

るものである。

【0010】

【発明の効果】本発明は上述のように、線材の一端より線材と略直交する方向に向けて屋根下地材に打入される釘部を突設し、線材の他端より上記釘部と反対方向に向けて平板屋根材の下端を支持する支持部を突設し、支持部と釘部との間において線材の途中に釘部の打入位置を位置合わせするための目印を設けてあるので、線材の途中に設けられた目印を先に葺設された平板屋根材の後端に位置合わせすることで釘部の打入位置を正確に位置合わせすることができ、墨打ちを行なったりすることなく簡単に釘部を屋根下地材上の正確な位置に打入でき、施工を簡略化しながら支持部による平板屋根材の支持を正確な位置で行なうことができるものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示す正面図である。

【図2】同上の設置状態を示す斜視図である。

【図3】同上の設置状態を示す部分斜視図である。

【図4】同上の設置状態を示す断面図である。

【図5】同上の設置状態を示す平面図である。

【図6】同上の他の実施例を示す正面図である。

【図7】同上のさらに他の実施例を示す正面図である。

【図8】従来例の正面図である。

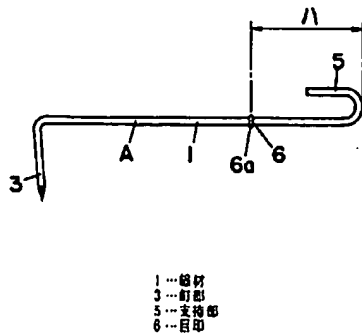
【図9】同上の設置状態を示す断面図である。

【図10】同上の設置状態を示す平面図である。

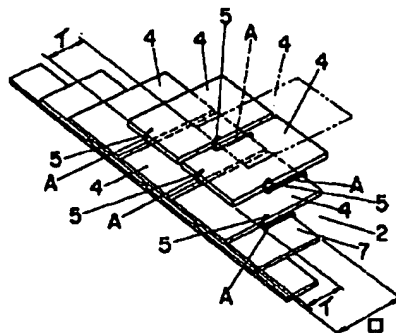
【符号の説明】

- 1 線材
- 2 屋根下地材
- 3 釘部
- 4 平板屋根材
- 5 支持部
- 6 目印

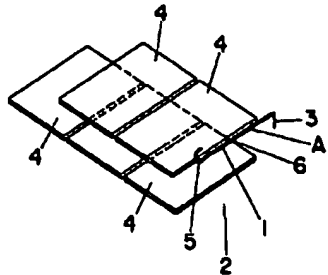
【図1】



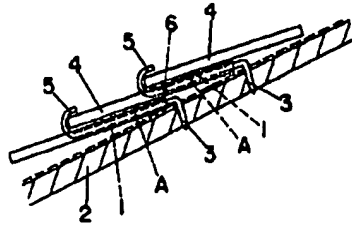
【図2】



【図3】

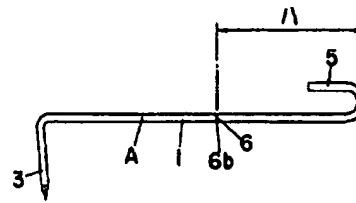
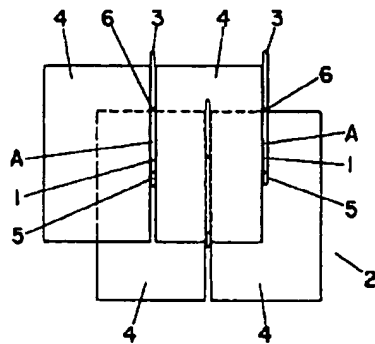


【図4】

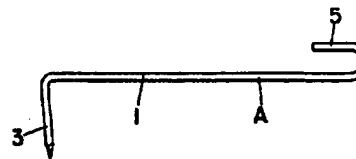


【図6】

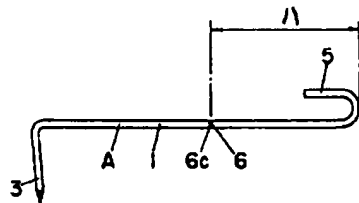
【図5】



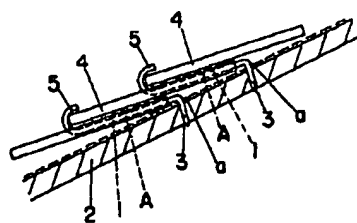
【図8】



【図7】



【図9】



【図10】

